

# 今治で高校野球強化試合 県内校 智弁と戦い熱く 19・20日には創志と



高校野球の秋季県大会上位校が、他県の強豪校と対戦する強化交流試合(県高野連主催)が13日、今治球場で始まった。初日は甲子園常連の智弁学園(奈良)を招いて2試合を行い、今治西は2-7、松山学院は4-5でもに敗れた。

来春の選抜大会の切符が懸かる四国大会(26日開幕・高知県)を前に実施した。秋の県大会3位の今治西は初回にミスが絡んで3

強化交流試合で対戦する今治西と智弁学園  
|| 今治球場

失点。三回に藤井の適時打で1点返すなど食いついたが及ばなかった。

14日も同球場で2試合を行い、秋県準優勝の松山商などが智弁学園と対戦。19、20両日は坊っちゃんスタジアムで、県王者の新田など3校が創志学園(岡山)と戦う。

## 強さ体感「隙がない」名門と対戦 大きな収穫

グラウンド中に強さの秘訣(ひけつ)が転がっていた。智弁学園と対戦した今治西と松山学院の選手は名門のプレーにじかに触れ、多くの収穫を得た一日となった。

技術の高さ、体の大きさ、投打で感じた球の強さ。戦い終えた選手は県大会との違いを口にした。凡打でも次の塁を狙う姿勢や攻守交代時の全力疾走を徹底する相手に、「隙が一切なかった」と感じた。

通用した部分も少なくない。今治西はバッテリーが県大会での反省を生かして配球を工夫し、8回7奪三振の力投を見せた左腕榊原は「この試合をもう一度おさらいして、四国大会に生かしたい」と話した。

松山学院は秋季大会後、投手は腕を、野手はバットを「強く振る」をテーマに取り組んできた。山内主将は1点差での敗戦に唇をかみながらも「やってきたことを発揮しよう」と積極的にトライできたと振り返った。阿保監督は強豪との対戦が選手の意識改革につながるとし、「県全体でレベルアップにつなげていきたい」と話した。

(門屋駿介)

